

「これが映画だ」前人未踏の頂へ

北日本新聞

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
〒930-0094 電話076-445-3300
©北日本新聞社 2009

特別版

©2009「剣岳 点の記」製作委員会

剣岳

点の記

つるぎだけ

CG、空撮一切なし 本年最大の感動作

北アルプス剣岳(富山県)を舞台に、日本地図完成のために命をかけた明治の男たちの軌跡を描いた「剣岳点の記」が六月二十日、ついに全国のスクリーンに登場する(富山県内は六月十三日から先行公開)。人跡未踏とされた剣岳山頂を黙々と目指す測量隊の姿、圧倒的なスケールの映像美は、日本人が忘れかけた美しい心と自然の存在を問いかける。



雪が積もった稜線を登る測量隊。撮影では、100年前の測量隊が三角点を設置した山々に忠実に登った



無名の男たちの姿を映画にしたい
「剣岳 点の記」は、日本を代表する名キーマン木村大作が、半世紀の映画人生で初めてメガホンを取った作品だ。

平成十六年、木村監督は映画撮影用のカメラを持って能登半島を旅した帰り、新田次郎の小説「剣岳 点の記」を思い出し、立山連峰まで足を伸ばし、立山の風景をカメラに収めた。あらためて原作を読み返すと、険しい山々を舞台



6月20日(土) 全国ロードショー

厳しい顔つきで立つ柴崎芳太郎役の浅野忠信と、宇治長次郎役の香川照之。脚本の流れ通りに撮影する「順張り」が、表情にリアリティーを生んだ

大スクリーンで体験する驚きと感動
撮影では、CGや空撮は一切使わなかった。昨今の映画ではきわめてまれだ。三千メートル級の立山連峰で、百年前に実際に測量隊が三角点を設置した山々を忠実に登り、時には最低体感温度が氷点下四〇度以下という状況で撮影。徹底したリアリティーを

に、仲間を信じて二つの仕事に挑む男たちのドラマが描かれていた。「これを映画にしたい」。「剣岳 点の記」の映画化構想がこの時動き出した。

映画で描かれるのは、日本地図を完成させるために、剣岳の測量に命をかける無名の男たちの姿だ。名譽のためでも己の利のためでもない。ただ仕事に誇りを持ち、剣岳に挑む男たちの姿は、効率や利益ばかりを追い求める現代社会で私たちが忘れつつある、本当に大切なものを教えてくれる。ただひたすら黙々と映画を撮り続けてきた木村監督の思いがそこには込められている。

追求めた。「厳しさの中に美しさがある」という思いを貫いた。



柴崎測量隊に、日本山岳会も追っかけていた



急しゅんな岩場を登る口ケ隊



剣岳の測量に向け、作業を進める柴崎(中央)と生田(左)ら

標高2,999m、氷点下40度。日本地図完成に命をかけた男たちの、魂の記録

誰かが行かねば、道はできない

明治三十九(一九〇六)年、陸軍陸地測量部の柴崎芳太郎(浅野忠信)は、日本地図最後の空白地点を埋めるため、「陸軍の威信にかけて、剣岳の初登頂と測量を果たせ」という厳命を受ける。妻・葉津よ(宮崎あおい)の励ましを受け、柴崎は前任の測量手・古田盛作(役所広司)から紹介された案内人の宇治長次郎(香川照之)と剣岳の調査のため山に入ったが、登頂への手掛

かりすつめず下山する。翌年、測夫・生田信(松田龍平)らを加えた測量隊総勢七人で雄山、奥大日岳、別山など剣岳周辺の山々に三角点を設置。ついに剣岳に挑むが絶壁、雪崩、暴風雨、困難に次ぐ困難が、測量隊の行く手を阻む。

一方、創立間もない日本山岳会の小島烏水(仲村トオル)らも最新の登山道具を揃え、剣岳山頂を目指していた。

果たして、柴崎たちは、無事剣岳山頂に立ち、地図作りの任務を果たすことができるのか。



写真上/柴崎芳太郎率いる測量隊 写真下/小島烏水率いる日本山岳会のメンバー。衣装は当時の資料を参考に作られた

主な登場人物



生田信
松田龍平

陸軍参謀本部陸地測量部測夫。日本山岳会に剣岳初登頂を譲りたくないの思いから、柴崎や長次郎を急がすが、自然の厳しさや苦難を経験し、徐々に仲間とのきずなを深め、素直で謙虚な心を備えていく。



宇治長次郎
香川照之

測量隊案内人。山岳に精通し、登山家や仲間からの信頼も厚い。自然を敬い、自分よりも他人を気にかける熱く優しい男。立山信仰を破って測量隊を案内しようとし、剣岳登頂に反対する息子とあつれきが生じていた。



柴崎芳太郎
浅野忠信

陸軍参謀本部陸地測量部測量手。明治39年、人跡未踏とされた剣岳の測量の命令を受け、仲間たちとともに命をかけて登頂を目指す。仕事に対する責任感が強く、多くの男たちから慕われる寡黙な男。



古田盛作
役所広司

元陸軍参謀本部陸地測量部測量手。かつて軍の指令で剣岳の測量を目指し登頂に挑むが、険しさから断念した経験を持つ。助言を求めに来た柴崎に過去の経験を話し、案内人として宇治長次郎を薦める。



小島烏水
仲村トオル

剣岳登頂を目指す日本山岳会の一団を率いる。ヨーロッパ製の最新道具を備え、当初は柴崎らに挑発的な態度を取る。剣岳の頂を目指すうち、測量という任務を背負った柴崎らに敬意を表するようになる。



柴崎葉津よ
宮崎あおい

柴崎芳太郎の妻。朗らかに、どんな時も芳太郎の味方であろうとする。一途でけなげな若妻。測量の仕事に誇りを持って過酷な任務に挑み続ける夫を慕い、穏やかに見守る。芳太郎はそんな妻に安らぎを感じる。